



社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦
発行所 江東区東砂 6-2-14-3F TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

理事あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 理事 原 隆典

寒さも一段落し、春の花が咲き始めて参りました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今年度については、コロナ禍において東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。これまでと違い、様々な制限がある中でしたが、改めてスポーツの与える影響力の大きさを痛感しました。

当法人においては、障害福祉サービスが利用者の方々やそのご家族の生活を維持する上で欠かせないものであり、コロナ禍においてもできる限り継続した運営とすべく、感染防止対策を推進したうえで、生活面における対応や日中活動の調整などに取り組んでまいりました。しかし、本年初頭に押し寄せた第6波により、当法人運営事業所においても休園等の対応を行わなければならない事態となりました。皆様のご協力もあり、事業運営を再開することができております。改めて、感染症対策について検討し実践していく必要があると考えております。

利用者の方々やそのご家族が安心して地域での生活を送れるように努めて参りたいと思います。

今後ともよろしくお願いたします。



「新しいスタート」

江東区あすなろ作業所 支援員 米川 直輝

今年度、新たに江東楓の会の仲間入りをしたあすなろ作業所。職員が大幅に変わり、利用者みなさんにとって大きな変化だったと思います。そのような中で、利用者みなさんに「今日も楽しかった！また明日も来たい！」と1日の終わりに思ってもらえるような施設を目指し支援してきました。

笑顔溢れる施設にするために、職員一人ひとりが笑顔で、誠実かつ思いやりを持った関わりを大切にしました。「ありがとう」や「ごめんなさい」が職員同士でも利用者さんに対してもしっかりとと言えるようになり、今までのあすなろ作業所の支援を継承しながら、明るいあすなろ作業所の空気、カラーを作ることができたと思います。

また、コロナ禍でも利用者の皆さんに楽しんでもらいたいという思いから、感染防止に留意しながら行事を行いました。「あすなろプチ秋祭り」では法人内各事業所からゲームをお借りして射的やストラックアウトなどを行い、いつもの作業中では見ることでできないような姿で楽しまれているのが印象的でした。スカイツリーへのランチ外出や施設でのテイクアウトランチでは、メニュー選びを悩むところから楽しまれており、食べ終わると「次はいつやるの？」というリクエストの声が多く、行事ができたことを嬉しく思いました。

感染による不安がまだまだ残る中、利用者みなさんが声を掛け合って感染予防に取り組む姿や、制限がある中でも作業所での日々を楽しもうとされている姿を見て、職員一同さらに利用者みなさんに楽しく、安心できる居場所を作れるようにしていきます。



「今年度を振り返って」

江東区リバーハウス東砂 支援員 榎満 美希

リバーハウス東砂に異動してあっという間に一年が経ちました。入所施設での経験はあったのですが、日々異なる利用者さんを受け入れ、支援するのは初めての経験でした。限られた情報を基に支援を判断することへの戸惑いもありましたが、職員間で連携を取り、声を掛け合って、利用される方に安心してご利用いただけるよう尽力した一年でした。

感染症の影響から外出等を定期的には実施する事は難しく、室内で出来る事を探り、安全に配慮しながら実践しました。月に一度、食事におたのしみメニューを実施したり、最寄りのコンビニまで買い物に行く活動もしたりしました。みなさん嬉しそうに食事を召し上がったり、欲しい物を選んだり、普段と異なる雰囲気味わう事が出来ていたようでした。

まだまだコロナ禍のご時世ですが、リバーハウスでは引き続き感染症対策に取り組みながら、利用される方が少しでもリフレッシュできるような環境づくりをしています。体調に気を付けながら、今後もたくさんの方にお会いできれば嬉しく思います。

「対面できないからこそ、できる研修を」

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 武田 俊彦

春の訪れとともに、新しい年度が目の前に迫ってきました。

改めて今年度を振り返ってみると、いつまで続くのかとため息をつきながら、新型コロナウイルスへの対応に追われた一年でした。その影響のひとつとして、直接の支援に関わることはないのですが、ヘルパーへの研修が挙げられます。今年度は感染防止のため、従来の対面式ではなく書面にて行うことにしました。

今年の重点課題として取り上げたテーマは「虐待防止」です。ヘルパーと利用者が一対一で行われる支援は、通所施設のように同僚職員が目がない分、虐待が起こりやすい状況です。それだけに、各ヘルパーが虐待についての正しい理解と、それを防ぐための方法を学ぶことが大切です。今回の研修では、虐待に関する資料とサービス提供責任者によるレポートを読んだ上で、各ヘルパーから自身の経験を踏まえて、虐待を防ぐための意見を提出してもらいました。支援計画の見直し、利用者に対する共感の重要性、ヘルパーの孤立防止など、様々な意見が寄せられ、サービス提供責任者としても大いに勉強になりました。

これらの意見をヘルパー間でも共有することで、支援の質を向上させ、利用者と保護者の皆さまに安心して支援を受けていただきたいと思いますと考えております。

虐待に限らず、支援内容について気になる事がありましたら、ぜひ声をお寄せください。それらの声に耳を傾けながら、よりよい事業所を新年度も目指してまいります。よろしくお願いたします。

「今年度振り返って」

ワークセンターつばさ 支援員 清水 大稀

今年度の新卒として入職しました。福祉の職を選択した理由は、福祉に興味があったからではなく、人と関わる仕事をしたい、人の為になる事がしたいという気持ちで選択し、福祉の知識は殆どない状態で福祉の世界へ飛び込みました。

始めは、福祉について、仕事内容の把握、社会人としてのマナー等、覚える事考える事が沢山あり、自分でも何が分からないのかが分からなくなってしまふほど、周りの環境についていくのがやっとでした。半年たち、利用者や職員の人柄、仕事内容が少しずつ頭に入ってきたと感じ、少しだけ余裕が持てる時間が増えました。そこで、以前よりも利用者と深く関わる時間が増えました。そこで感じた事は、障害があってもなくても、感情は自分とあまり変わらないのではないかという事です。利用者の方が作業に気が向かない様子が見られたときに理由を聞くと、この作業が好きではないと返答される方が多くいました。しかし、誰もやりたくない事はあるし、反対にやりたいこともある為、そっちに気が向いてしまう事はあると考えています。その為、どのように作業に気持ちを向けてもらうか、どのように説明するべきか分からず、支援するのが難しいと感じました。

来年度は、自分の行動を見つめ直し、常に考えながら行動していくこと、他の職員がどのように声をかけているのか観察し、学ぶことの2つを意識していきたいと考えています。その他にも仕事の面も定着していない事が沢山ある為、同時にしっかりと定着できるよう、反復し習得したいと思えます。

「今年度を振り返って」

江東区亀戸福祉園

支援員 和泉 佑佳

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、行事の規模縮小や中止を余儀なくされました。そのような状況でしたが、利用者の方たちが楽しめるよう、感染状況に配慮しながら行事や活動を工夫しました。今年度は個別外出の代わりにランチ会を実施し、ドライブを楽しみつつ、好きなお店へ食事を買に行きました。外食は難しいためテイクアウトとなりましたが、室内を装飾することや皆さんの好きな曲を流すことで、室内でも楽しめるよう工夫をしました。また、今年度は東京オリンピックが開催されたこともあり、オリンピックにちなんだ活動を行いました。聖火リレーを通してのグループ間交流や、競泳やアーチェリー、ウェイトリフティングなどの競技を活動の中に取り入れることで、普段とは異なる雰囲気や活動を皆さんで楽しまれていました。

2月より、当園においても新型コロナウイルスのオミクロン株が猛威を振るい、感染対策をより徹底する運びとなりました。その一環として、活動方法の見直しなどを実施しています。今後も予断を許さぬ状況ではありますが、そのような中でも利用者の方が安全に楽しく活動できるよう、職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。



「近況報告」

グループホームかえで 管理者 仲俣 圭

令和3年度もコロナ禍が猛威を振るい落ち着かない毎日を過ごすことになりました。どれほど注意していてもコロナ禍はかえでにも影響を与え、2度の健康観察期間を過ごすこととなりました。そのような事態でも、利用者やご家族をはじめ、世話人の皆様や法人施設職員の皆様に、通所先の皆様・就労先の皆様に多大なご配慮・ご協力をいただき、なんとか乗り切ることができました。おかげさまで感染拡大を起こすことなく健康観察期間を終わらせることができました。ありがとうございました。まだ油断のできない状況ではありますが、職員一同気を引き締めていきたいと思っております。

グループホームは利用者にとって“家庭”であり、世間の家庭同様、コロナの感染リスクが高い場所です。コロナだけではなく、一人感染者がでたらあつという間にグループホーム全体に広がってもおかしくはありません。また、“家庭”ですから閉鎖することもできません。利用者にとって生活の基盤となる場所を支えている仕事であるということに改めて意識いたしました。

また新しい年度が始まります。寮生とは、自由な日々が戻るまであとしばらく“ガマンガマン”と話合っています。コロナ禍が治ったら寮生とまた楽しい時間を過ごしていけたらと思っております。

「動かないと始まらない」

第三あすなろ作業所 支援員 村田 茂儀

今年度は、‘とにかく前にすすもう！やってみよう！！’をモットーに取り組みました。利用者みなさんから、余暇活動に関わる要望がいくつか挙がる中、何ができるかを探し、職員間で考え続けた一年だったように感じます。

その中で、2年続けて中止せざるを得なかったサン3 フェスティバルの代替えとして、『サン3 フェスティバル☆ミニ』を企画しました。わたあめやポップコーンづくりやゲームコーナーを楽しむ利用者みなさんの様子が強く心に残っています。クラブ活動は、コロナ禍であることを念頭に置いて、内容を企画していましたが実施に至りませんでした。来年度こそは！と思っています。

不安が尽きなかったのは、いつ受注作業が途切れてしまうかわからないということでした。毎月の工賃は、利用者みなさんの大きな楽しみの一つです。どうにか収入を維持するために、新規業者からの連絡も同様ですが、継続取引業者からの作業依頼は（なるべく）断らないこと、そして以前よりも最良にしていただける対応を心掛けました。その甲斐もあり、昨年度の収入を上回る見込みとなっています。利用者みなさんのがんばりがあって達成したのはもちろんですが、職員全員がそこに加わったからこそだと思っています。また、自主製造品に関しても、あるきっかけで近隣の店舗に販売させていただきたい依頼をしたところ、快く委託販売を受けていただき、地域とのつながりができたことをうれしく感じる、といったコメントを販売店舗の方よりいただきました。

希望が叶わないことは言い出すときりがありませんが、そんな中でもこれだけ得られたことがあるのは、こんな世の中だからとも考えられます。

最初にモットーとして書きましたが、これは今年度に限らず、これから先も大切にしていきたいと思います。

「新たな取り組み」

若竹作業所 支援員 名古曾 敬太

今年度を振り返ると、新型コロナウイルスの影響により感染症対策を徹底した一年となりました。室内の換気やアルコール消毒をはじめ、利用者の方へのマスク着用の声掛けや、手洗い等一人ひとりができることを徹底してきました。作業も利用者間にアクリルパーテーションを設置する、同一方向を向いて作業を行う、ペアでの作業をなくし利用者同士の距離への配慮をする等、工夫しながら行ってきました。

また、宿泊旅行や塩砂福祉プラザ祭りといった行事が中止となってしまい、利用者の方の楽しみが減少してしまいました。そのような中でも利用者の方が楽しく通所できるよう出来る範囲での企画を考え実施してきました。その中の一つとして、今年度は感染症対策をしながら少人数で外出するという新たな取り組みを行いました。動物を見に行く、自然を楽しむなど、利用者と一緒に行き先を考え外出しました。また、外出だけでなく少人数のグループごとで食べたいメニューを伺い、職員がテイクアウトし作業所内で中華料理やいつもの昼食を食べるといった個別昼食会も行いました。自分がいつなのか楽しみにしている様子や、「また食べたい」と嬉しそうにしている方が大勢いらっしゃいました。

残念ながらまん延防止等重点措置の発令により小グループ外出に行くことができなかった利用者もいましたが、来年度以降も感染症対策に努めながら、楽しく過ごせるよう企画していきたいと思います。

「今年度楽しかったこと・来年度やりたいこと ～利用者の皆さんから～」

高齢障害者通所施設さくら 事務主任 大野 誉仁

新型コロナウイルスの影響が長々続く中、さくらでも諸活動の縮小や中止をしなければいけない一年でした。どうしても暗い話になりがちなので、今回は利用者の皆さんに“楽しかったこと”を中心にインタビューをしてみました。

～楽しかったこと～

- ・防災訓練のヘルメットが上手にかぶれた！
- ・廊下の歩行よかったよ！
- ・月曜の体操がすき
- ・車で納品に行った。頑張った
- ・カラオケ大好き！
- ・給食が毎日楽しみ！
- ・みんなとのお話が楽しい。職員とのやり取りが楽しい
- ・毎週のコーヒーが楽しみ
- ・さくらにきてよかった。みんながいる。
- ・大人の塗り絵が意外と面白い。時間を忘れてやっちゃう
- ・ミシンを頑張ってたくさん台拭きを作った。結構売れたみたい などなど…

～やりたいこと～

- ・宿泊旅行！行先は河口湖がいいな
- ・外出やクラブ活動で羽田飛行場にいきたい！
- ・お祭りが開催したらみんなにきてほしい。今年で辞めちゃう職員も来てくれるかも！

大変な状況下でも、さくらの皆さんは楽しみを見つけて過ごされています。また、来年度やりたいことも盛りだくさんのようで、行きたいところの話題で盛り上がっています。

いつもにぎやかで笑い声のたえないさくらは、新型コロナウイルスも寄ってこないのではないのでしょうか。



令和3年度 後援会会員名簿

＜賛助会員＞ （第47号からつづく）

大野 誉仁
桑島 直之
佐藤 充宏
政司 美佐子
神内 梓
瀬尾 かおる
鷹木 清光
出村 吉伸

（敬称略、順不同）

（なお、令和 4年 3月 18日以降 賛助会員は次号につづく）

編集後記

会員の皆様には、日頃から当法人の運営に際し、多大なるご協力とご理解を賜りありがとうございます。今回の会報誌「かえで」は各事業所の一年間の振り返りと抱負をテーマと致しました。コロナ禍の中で工夫した事などが多く見られていました。暗いニュースも多い中で、「ポジティブに！前を向いて頑張ろう！」そんな気持ちが見られ、自身も気持ちが引き締められました。

新年度は気持ちを切り替えるにはちょうど良いタイミングです。来年度は明るい話題が盛りだくさん！そんな一年になるように日々明るく過ごしていきたいと思えます。

